

大阪・住友銅吹所跡

すみともどうふきしよ

1 所在地 大阪市中央区島之内一丁目

2 調査期間 一九九〇年(平2)五月～一九九一年五月

3 発掘機関 財大阪市文化財協会

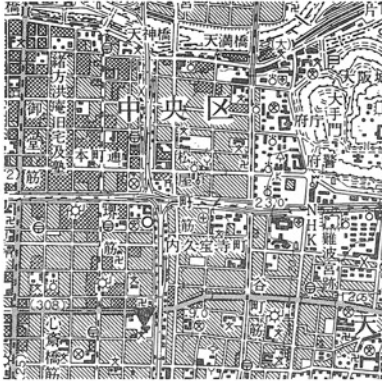
4 調査担当者 鈴木秀典・清水ひかる・松尾信裕

5 遺跡の種類 銅精錬所跡・豪商住宅跡

6 遺跡の年代 一七～二〇世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

この遺跡(約四〇〇〇㎡)には住友家が経営した銅の精錬所(寛永一三年「一六三六」～明治九年「一八七六」)と住友本家住宅(元禄三年「一六九〇」～昭和二〇年「一九四五」)が存在した。住宅は大正初め以前は本邸、以後は別邸となっていた。発掘面積は約三六〇〇㎡で、銅精錬所・住宅関連の多くの遺構・遺物が出土した。七・八世紀の遺物包含層や豊臣氏大坂城期の遺構、一



(大阪東北部)

七世紀の別の業者による銅の精錬所なども確認した。

荷札は住友家銅吹所の水溜遺構の一つ(推定一辺約三・六m四方で、深さ〇・八m以上の木組構造)から出土した。この遺構の底板の台木(長さ三・六×四・〇mの角材)は一・八mおきに三本置かれており、台木のうち二本は上下別の角材を鉄釘で打ち付けて合わせたものであった。荷札はその間に挟まれて出土した。三本の台木上面の高さをそろえるための材に転用されたものとみられる。

8 木簡の釈文・内容

ほぼ同じ内容の荷札が二三点出土している。うち三点を報告する。

(1) 「大坂長堀 〇 從若劬三幸銅山

住友吹所行 秦與兵衛

皆掛拾七〇二百奴 225×55×8 011 *

(2) 「大坂長堀 〇 若州三幸銅山

住友吹所行 秦與兵衛

「 拾七〇貳百目 228×52×9 011 *

(3) 「大坂長堀 〇 若劬三幸銅山

住友吹所行 秦與兵衛

平銅 皆掛 拾七〇貳百 227×50×8 011 *

一三点の中には釈読不能な部分をもつものが少なくないが、前後の字句から全てが若狭の三幸銅山の秦與兵衛から大坂長堀茂左衛門町の住友吹所へ荷を送ったときの荷札とみて誤まりない。

全て裏面には記載がなく、表面の上部に宛名、下部に差出人の名が書かれ、左端には荷の包みも含めた重量が記されている。ただし、(3)のみは、重量の上に荷の種類も明記されている。また「皆掛」の下に重量がまったく書かれていないものも一点あった。

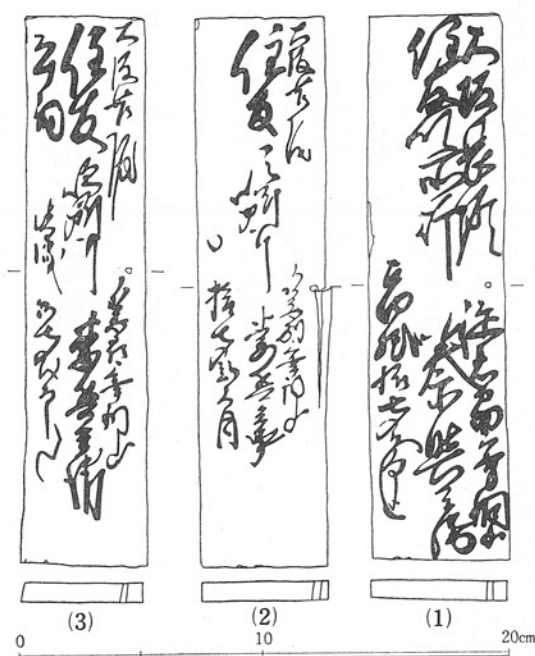
宛名の「所」に「處」を用いたものがあり、差出人の「從」に「よ」、「州」に「劔」を使ったものも多い。

重量の記載の「皆掛」の字句は(2)のみが不明であるが、他には書かれているようである。「貫」に「べ」を用いており、また「掛」の代わりに、「懸」の字を用いているものがある。重量の数値は、まったく記載のない一点を除き、「拾七べ貳百」と読み取れるものが六点、「拾七べ貳」が二点、「拾七べ」が四点である。後二者もその下に複数の字の痕跡が認められるものが多く、ほとんどは「拾七べ貳百匁」と書かれていたであろう。「拾七べ」は「拾」の代わりに「十」を多く用いている。なお、二〇匁以上でかつ十位の下に数字がない場合は、匁は「目」字を用いるのを常とするが、実際はかなりの混用して用いられており、当出土例でもそれが知られる。

三幸(光)銅山は福井県大飯郡大飯町野尻にあり、一八世紀後半に小浜藩が一時稼行したのち、天保一二年(一八四一)〜嘉永元年(一

八四八)に住友家が、そしてその後同七年までは住友家の三幸銅山支配人であった秦與兵衛が住友家から経営を譲られ稼行した。嘉永七年に秦與兵衛が病没した後は、明治三年(一八七〇)に休山になるまで小浜藩が経営している。

三幸銅山からは天保以降、住友長堀吹所へ基本的に入目も含め荒銅一六貫一〇〇目を一包みにした荷が航路で運ばれている。荷の風袋(おそらくむしろに縄掛け)も合わせた重量が約「拾七べ二百匁」であったのであろう。荒銅には平銅と床(尻)銅があり、この鉱山では純度の高い平銅は少量で、多くを床銅が占めた。荷の種類が明記



されていない荷札は床銅につけられたものではないだろうか。ただし、重量の記載もない一点については荷の種類は不明とせざるを得ない。荷札の時期は差出人の名から嘉永二〇七年と思われる。

なお、三幸銅山については、小葉田淳「鉦山稼行とその周辺―若狭、三光銅山の場合―」『史林』五七一―一九七四年、同「若狭三光銅の大坂廻送と銅座売上」(一)(二)『住友修史室報』八、九一九八二年、一九八三年を参照されたい。

釈読と三幸銅山については住友史料館今井典子氏のご教示を得た。

9 関係文献

鈴木秀典・清水ひかる「江戸時代最大の精錬遺跡 住友銅吹所の発掘」(勸大阪市文化財協会『葦火』二九 一九九〇年)

鈴木秀典・清水ひかる「同右―その2―」(同『葦火』三一 一九九一年)

(鈴木秀典)

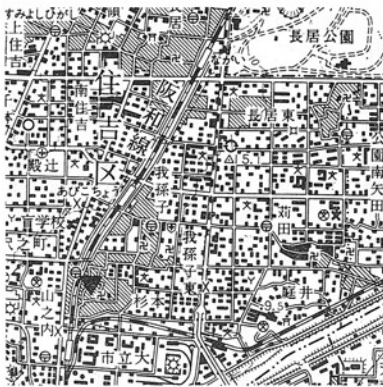
大阪・山之内遺跡

- 1 所在地 大阪市住吉区山之内元町
- 2 調査期間 一九九一年(平3)二月～三月
- 3 発掘機関 勸大阪市文化財協会
- 4 調査担当者 松本啓子
- 5 遺跡の種類 铸造関係遺跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～中世(室町時代)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

山之内遺跡は、現在の大和川に北接する微高地の上に位置し、現地表面の標高は約一一mを測る。現在までの調査から推定される遺跡の範囲は、東西二km、南北一・五kmで、弥生時代の集落と墳墓、古墳時代・奈良時代・中世の集落などが検出されている。

今回の調査地は、遺跡北

東部のJR阪和線と城東貨物線に挟まれた民家の密集した場所で、今まで発掘調



(大阪東南部)